

美人若旦那武蔵君♡
お客様と秘密の子作りごっこ♡

Produced by LETM

京都は祇園の一角に、一軒の温泉宿がある。

「ようこそお越しやす。お荷物お預かりいたしますね」

その玄関先で今まさに、従業員が宿泊客を出迎えていた。客はスーツを着たビジネスマンといった風体で、それを出迎えているのは女性の仲居ではなく、着物と前掛けを身に着けた若い男だった。艶やかな黒髪を後ろに軽く流し、つんと切れ長な目元は少し鋭いが、涼しげで着物がよく似合う。中々の器量よしである。

彼はこの旅館の跡取り息子で、名前を武蔵という。若女将ならぬ若旦那だ。

「あのっ、これ良かったら召し上がってください」

スーツケースを預けた男が、もう一方の手でいそいそと紙袋を差し出した。ぱっと、武蔵の表情が綻ぶ。

「わ、千疋屋やーん！　おーきに。休憩時間に頂きますね～」

「喜んでもらえて嬉しいです！」

「こちらこそ、ご贔屓にしてくれるだけで嬉しいのに、毎回お土産まで頂いてしもて申し訳ないなあ」

「そんな全然！　若旦那さんが出迎えてくれるだけで旅の疲れが吹っ飛ぶんで！」

「おだててもお夕飯の品数は変わらへんで。ほな、お部屋にご案内致しますね」

冗談を口にしつつ踵を返すと、宿泊客の男もにこにここと笑いながら後に続いた。

武蔵は宿泊客からの評判が良く、こうやって各地からの土産物を貢がれる事も珍しくなかった。一般的には女性がするイメージが強い仕事を、男ながらにやっているという時点でまず目を引く。その上、仲居達に可愛がられて育った自己肯定感から来る自然な愛想の良さと、両親のいいとこどりをした整った容姿、女性をお手本に仕事を覚えた品のある所作等がウケて、観光雑誌にも取り上げられる程の人気ぶりなのだ。

女性は勿論ながら男性客にも武蔵のファンは多く、「若旦那さんが居るから」という理由で宿を選んでくれる客も少なくない。その上仕事もテキパキとこなすし、細かな気配りが出来るし、外国人観光客に対しての英語もバッチリ。後を継がせれば安泰間違いなしの、文字通りの看板息子である。

ただ、客に人気がありすぎるが故に、ちょっとした問題もあって……

「ちょっ、ちょっ、ちょお！ 武蔵君大丈夫やった！？」

客を部屋に通して戻って来ると、仲居の一人が血相を変えて駆け寄ってきた。大丈夫かと聞かれた所で、そもそも何を心配されているのかが理解できず、眉を寄せつつ小首を傾げる武蔵。

「は？ 何が？」

「いやさっきめっちゃお尻触られてたやん！ ああいうのハッキリ止めてって言わなアカンで！？」

仲居の言葉に、武蔵が検討のついたような表情になる。そ

う、問題とは、男性客からやたらセクハラを受けてしまう事だった。

気立てのいい着物美人の若旦那を、客の男達が放っておくはずがない。何とかその気にさせて、旅疲れでムラつく雄マラの面倒を見させたいと、尻を揉んだりいやらしい手つきで体を撫でたりはしょっちゅうだ。女の仲居相手にすると問題になりそうな事も、男が相手ならちょっとやそっとでは騒がれないだろうと気が大きくなり、欲望剥き出しで大胆に迫ってくる。しかも武蔵がそれに対して危機感を覚えないものだから、仲居達、別名武蔵のセコム達は気が気でないのだ。私達の可愛い武蔵君に何かあってからでは遅いのだ！ と。

「ああ……ええてええて。女でもあるまいし、あんなん一々気にしてたら日が暮れてまう」

「でも」

「あ、でもあんたらがそういうのされたら俺に言いや？ ちゃんと注意させて貰うさかいにな。こういうのは女より男が言うた方が効くやろ」

「(男前！ 好き!)」

ナチュラルなイケメンセリフに顔を覆って項垂れてしまう仲居。小さい頃から成長を見守ってきた武蔵がすくすくとイイ男に成長してくれた事が、嬉しいような、照れくさいような、不思議な心持だった。



そして夜。一日の仕事を終えた武蔵は旅館の廊下を歩いていた。

時刻は午後十時を回っており、大半の宿泊客は部屋でのんびりと過ごしている時間帯。館内を歩く人影もまばらである。誰も見ていない事を確認してから大きく伸びをして、はあっと溜息を一つ。

(あー……なんか今日は変なん多かったな……)

変なの、とは、件のセクハラ客である。

大して気にしないとは言っても、キワドイ部分をいやらしい手つきで悪戯されるのだから、頻繁にやられればそりゃあ悶々とした気分にもなる。腰や腿を撫で回されたり、耳を揉まれたり、挙句部屋に通した際に口説かれながら尻を揉まれたり。そんなもの武蔵が腕を捻り上げて凄めばどうとでもなるのだが、一応客商売な手前温い対応しか出来ず、結局ダラダラと止めさせどきを見失ってしまうのだ。

仕事中は気を張っているのであまり感じなかったが、上がり時間になった途端、知らず知らず体が疼きを溜め込んでいた事に気が付いた。

(さっさと部屋戻って AV でヌこ)

脳味噌と下半身が直結した決意を胸に前掛けを外す。いくら影で美人若旦那と持て囃されていようが、その実中身は健

全にエッチな事が大好きなどこにでも居る普通の男である。
エロ動画見ながらの手コキオナニーなんて齒磨きみたいなモンだ。ちなみに最近のお気に入り、動画サイトの月額有料コンテンツ。嬢は可愛い子が多いしプレイも充実していて、コスパも質も実がいい。

そんなこんなで、落ち着いてスッキリする気満々で歩を進めていたのだが……

「あっ、若旦那さん！」

母屋に戻る向かう道すがら、声を掛けられた。

(げ)

そこには客の一人がいて、いそいそとこちらに歩み寄って来る途中だった。夕食を配膳した際に、料理の説明をする武蔵にやたらベタベタ絡みつき、最終的には硬くなった股間をしな一と押し付けてきた前科がある男だ。いやらしい目で見られている事は明白だった。

面倒なヤツに見つかった、と、心の中で悪態をつくが、相手は一応お客様。顔には笑みを浮かべて軽く頭を下げる。

「どーも。楽しんでくれてはりますか？」

「ええ、勿論！ 温泉気持ちよかったなあ。若旦那さん、小さい頃からあのお風呂入ってるからこんな艶々してらっしゃるんでしょうね。あ、今お忙しいですか？」

「いえ、もう仕事終わりで上がる所やったんです」

「え！ そうなんですか！？ 奇遇だなあ！」

もう仕事は終わりだから、しつこくしないで下さいね。と、言外に含ませた言葉のつもりだったのだが、あろう事かそれを聞いた男は一層馴れ馴れしく身を寄せて来た。腰に手を回し物陰に引き寄せられて、尻たぶをそれとなく撫でられる。「実は、旅疲れで頭と体がギンギンに冴えて眠れなくなっちゃって……良かったら少し話し相手になってくれませんか？俺の部屋で、男同士、水入らずで……ね？♡」

「っ」

幸か不幸か、相変わらず周囲に人影は無く、不自然な距離感を訝しむ第三者は居ない。耳元でぼそぼそと囁かれながら、腿と尻の境目を指先で辿られて、思わずぞくりと下肢が震えた。

（ああ、アカン、今体はその気になってるから……）

仕事とは違い、これから気持ちよくなるつもりでいた所に不躰に与えられる性的な刺激。油断していた所をつけ込むように口説かれてしまえば、武蔵の理性もナリを潜めてしまう。

（……まあ……ちんぽでも、エエかな……♡）

実の所小さい頃から、旅館の手伝いがてら客の前で服を脱いだりおちんちんを触ってあげたり、小遣いが貰えるものだから、よく分からないまま性的なサービスを行っていた。少し成長してエッチな事にも興味を持ち始めた頃に初めての雄竿の味をアナルに教えられ、それからもちよくちよく求めて

きた客に応じるうちに、おちんぼハメでも気持ちよくなれる体になってしまった。

「ん、せやねえ……。部屋に戻ってもどうせ一人やし、お客さんとお話して気ィ紛らわそかなあ……。♡」

急にしなっぽくなった武蔵の態度に、男の瞳が明らかにぎらついた。「決まりですね！」鼻息も荒く手首を掴まれ、客室の方へと引っ張られる。そんな性急さを感じる態度に、ひっそりと舌なめずりを一つ。

武蔵がセクハラに対して危機感を見せない最大の理由がこれ。実は彼自身楽しんでいる部分もあるからだという事を、保護者達は知る由もない。



「ふー♡ ふー♡ 仕事終わりの汗の匂い最高だあ♡ 俺が勃起ちんぼ押し付けてたの、まさか気付いてないはずないですよ？ それなのにこんな時間にノコノコ部屋に来たって事は、もうそういう事ですよ！♡」

「っ、あ、あの、やっば軽くシャワー浴びてから……。！」

男は武蔵を部屋に連れ込むなり強引に壁際に追い詰めて、覆い被さりながら首筋に顔を埋めて大きく呼吸を繰り返してきた。さすがに羞恥心が刺激され、なんとか身を振って逃れようとするも、尻に両手を回してがっちりと抱え込まれた状

態で、体重をかけられれば抜け出せるはずもなく。

「こんんなちんぽにクる匂いぷんぷんさせてるのに、シャワーなんて勿体ない事させるわけじゃないじゃないですか！ はーっ♡ はーっ♡ ああ、堪んねえ……♡」

雄臭い手つき尻肉をまさぐりながら、早くもガチガチになっているペニスを回しつけられる。首からねっとりと舌が這い上がり、下品な音を立てて耳朶を舐め回す。部屋に入った途端、ケダモノのように性急な動作で追い詰められ、その溢れんばかりの性欲に武蔵の方もあてられてしまいそうだった。
(ああ……体熱っ……♡ こ、こんな♡ こんな求め方されたらあ……♡)

じゅぱっ♡ じゅぱっ♡ ちゅくちゅくちゅくちゅく♡
ぬぼっ♡ ぬぼおっ♡

脳まで響く耳舐め音が脊髄をぞくぞく粟立たせる。臀部に食い込む指先と、布越しでも熱さが伝わるようなおちんちんアピールも相まって、否応なしに体の発情スイッチが入れられてしまう。瞳がとろんと潤み、腰振りにあてられて気持ちよくなった股が左右に開いて、腕はしがみつくように男の背中へと。

「んっ♡ んううう♡ みみ、やめ♡ あっ♡ だめええ……ッ♡♡」

「はあっ……いけないいけない。連れ込めたのが嬉しくて興奮しすぎちゃいました……♡ ゆっくり優しく抱いてあげな

きゃね……♡」

ねとお……♡ 唾液の糸を引きながら、耳朶から舌が離れていく。「耳が弱いのか」「感じやすいの可愛いね」なんて囁かれながら、雄臭い手つきで体をまさぐられ、布団へと誘われる。

「ん、んん……♡」

キスをしながら着物をはだけられ、薄い襦袢の上から温度の高い手のひらが体のラインをまさぐる。指先が乳首をコリコリと引っかけて、細く引き締まった腰を撫で回し、足の付け根を摩って股を開く事を催促する。舌を絡め合いながら感じる部分への愛撫を与えられて、自然と足が広がってしまう武蔵の下着を、男の指が引っかけた。

（あ♡ あ…♡ 俺、こんなに……♡）

下着を擦り下されると、ペニスの先端が当たる部分の布地に、今しがただけでこうなったとは説明しがたいチーズのような白っぽい汚れがこびりついていた。その上からさらにセックスの期待に溢れた我慢汁がたっぷりとコーティングされ、鈴口との間に淫らな糸を引きながら離れていく。仕事でも無自覚に性感を煽られていた自身の体の状態をまざまざと見せつけられ、また、いやらしく下着を汚している事を知られた羞恥も相まって、武蔵の頬に赤みが増した。

「ああ、何ですかこれ……♡ ふふっ、女の子のおりものみたいだね♡ 若旦那さんはいつもこんなエッチな汚れこびり

つかせながらお仕事してるの？ 女性も沢山居る職場なのに、いけないんだあ……♡」

「ちが……今日はたまたま、ん……♡」

「そっかあ♡ 今日はたまたまムラムラしちゃう日だったんだね♡ こんな本気汁みたいな汚れつけるって事はもしかして排卵日かな？ だからおちんちん欲しくなってホイホイ客室上がり込んじゃったのかな～？♡」

排卵日なんてあるワケないやろこの変態が！！ 頭の中で悪態をついてみるものの、体は男の愛撫に身を振ってしまう。下着から解放されて解放感に震えるペニスを扱かれて、手コキの快感に息づいてしまうアナルも指先で悪戯される。

「ほら、ムラムラしてる体でセックスの準備しようね♡ ちんぽでいっぱい発情しながらおまんこハメハメの準備しよ♡」

気持ちよくなる気満々だった体は正直だ。いよいよ最も感じる部分を弄られれば、男に向かって大股を開き、さらに腰を浮かせて奥の窄まりを見せつけた。はしたないオネダリポーズをしてしまう武蔵にほくそ笑んだ男は、なんと準備もいい事に鞆からローションを持ち出して来た。

「え……な、んで、そんなモン……っ♡」

およそ男の一人旅には必要のなさそうなものを取り出され戸惑う武蔵に構わず、勃起して打ち震えるペニスの先端からトロリとローションをと垂らしていく。粘度の高い液体が性器を撫でて尻まで向かって行く刺激に、武蔵の腰が跳ねた。

「え〜？ ここの若旦那さん、すっごいシコれるし何も言わないでセクハラさせまくってくれるって評判いいの知らないの〜？ だからその気にさせたらもしかしたらやらせて貰えるんじゃないかな〜って準備してきたんだ♡ まさかホントに頂けるとはね〜♡ ダメ元で迫ってみるもんだねえ♡」

薄ピンクがかった半透明の粘液が、ペニスから会陰、尻穴までをもったりと覆っている様は、視覚からも男の興奮を掻き立てた。ちゅこっ♡ ちゅこっ♡ ちゅこっ♡ 改めて竿を抜き始める音と、アナルの様子を伺うように指先が出入りする音が鳴り響く。

「ひあ♡ あ♡ ん、くう♡♡ あっ♡ ああ♡ あああ……っ♡♡」

ローションまみれのぬるぬるちんぽコキと、内側の粘膜にもローションを擦り込むようなおまんこ穿りは、性欲の溜まった体には抜群に効果的なセックス準備だ。ただでさえ快感と他人の体温に弱かったおちんちんとおまんこが、雄の指先によって益々発情させられていく。

「っひいん！♡♡ そこっ♡ んおっ♡ そこらめええっ♡♡」

「おっ♡ Gスポ分かりやすっ♡ このコリコリしてる所ダメなんだ？ ちんぽもビクビクってさせちゃって♡ お股全体にキちゃうんだね〜♡♡」

肉ヒダを揉みしだいていた指先が、ペニスの裏側にある前

立腺を捉えた。腫れぼったくしこったソコをこりゅんこりゅんと甚振られると、ペニスが首を振り、膣道全体がびりびりと痺れ、この後のちんぽハメへの期待が膨らんで、声色が一層メスみを帯びていく。

「あっ♡ んくうう♡♡ あゝっ♡ あっ♡ あはあああっ♡♡」

ちゅぽっちゅぽっちゅぽっ♡ にゅばあっ♡ にゅばあっ♡ にゅっぱああああっ♡♡ 指を束ねて入り口から奥までを激しく突き上げられ、かと思えばアナルの広がり具合を確かめるように指を広げて腸壁を外気に晒される。勿論コリコリの前立腺は往復する度に撚られて、その気持ち良さに、腸壁がみるみるとセックス準備を整えていく。

「ひああ♡ ちくびっ♡♡ ちくびシないでっ♡♡ やだっ♡ やああっ♡♡」

さらに男はぴんと尖った乳首にも目をつけて、手マンと同時に、ちゅっぽんちゅっぽんと吸い付くバキューム乳首フェラまでし始めて♡ 左右のしこりを交互に味わわれ、そのぞくぞくとした快感がアナルを一層蕩けさせ、交尾穴へと作り変えていった。前戯から腰をくねらせて感じまくる武蔵の痴態を目の当たりにして、男の股間にもどンドン血が集まっていく。

「あ〜ちんぽイライラする……」

ぶるんっ♡ いよいよ男が武蔵の眼前に勃起ペニスを見せ

つけた。硬くなった肉竿を、ぺちぺちと頬に打ち付ける。

「若旦那さんがスケベすぎるせいで、こんなにギンッギンになっちゃった……♡ お客様のちんぽをイライラさせちゃったんだから、まずはお口でごめんなさいしなきゃね？ 上手にお詫び出来るまで子作りハメはおあずけだよ♡」

発情し、いつでもちんぽハメ OK なおまんこになった状態で、目の前に雄ちんぽを見せつけられて我慢出来るメスなど居ない。武蔵も全く同じ状態だった。男に言われるがまま血管浮き立つ竿に唇を寄せ、ちゅっちゅと媚びるようにキスを繰り返してお詫びのご挨拶。それから怒張する先端を柔らかく口内に招き入れ、喉奥を緩めて根本までずっぽりと口マンコにハメ込んでいく。自分がムラつかせてしまったバキバキの勃起おちんぽを、口内を使って上下に撫で擦り一生懸命慰めて、その後の本番おまんこハメをオネダリする。

(ちんぽの味も匂いも濃い♡ こんなのおまんこウズウズする♡ 腹の奥つれえよお♡♡ はやく♡ 早くちんぽハメて欲しいよお……♡♡)

口一杯に広がるおちんぽの味と、鼻孔から抜けていく雄臭に、トロトロに解されたおまんこがざわめいて仕方ない。フリフリと尻を振ってエッチなもやもやを散らそうとするも、それだけで気が逸れるはずもなく……結局我慢できずに指先が尻に伸びていき、男に見られているにも関わらず、武蔵は自らアナルを慰め始めた。

「おほっ♡ えっちだねえ♡ えっちだねえ♡ ちんぽしゃぶりながら自分でおまんこホジホジしちゃって♡ ちんぽ欲しくて堪らなくなってるのがよ〜く分かるよお♡ 若旦那さんは雄ちんぽの味に弱いんだねえ♡ ほんとに発情期のメスみたいだ♡」

「んっ♡ んぶっ♡ んんっ♡ んむうっ……♡」

「種付けする気満々のバキバキちんぽ、たっぷり堪能してね♡ これからおまんこハメハメするちんぽだよ♡ 入り口から熱い亀頭がぬるうって入って♡ ぶっといちんぽで奥までズコズコって擦って♡ 前立腺もいっぱいゴリゴリしてあげる♡ 最後は勿論奥に中出しして受精アクメさせてあげるね♡ だから愛情たっぷりフェラチオしようね♡ ぬるぬるに濡らしておちんぽ様のお迎え準備整えるんだよ♡」

「ふっ♡ ふうっ♡ んむっ♡ んんっ♡♡ んん〜っ♡♡」

興奮を煽る言葉を与えられ、武蔵の口淫にもどんどん熱が籠っていく。男の下腹部に鼻が擦れるほど根元までを飲み込んで、唇と舌で肉棒をコキ上げながらギリギリまで引き抜くストローク。それを素早く何度も繰り返す。ぬぼっ♡ ぶぼっ♡ じゅぼっ♡ じゅぼっ♡ 淫音を立てながら、口をすぼめて懸命にフェラチオをする姿は男の劣情を酷く刺激した。ごくりと生唾を飲み込んだ男が、武蔵の頭の動きに合わせて腰を揺らしつつ、両手で左右の耳たぶを捕らえる。

（♡♡ みみっ♡ そんな風に触られたらきもちくなるっ

♡♡ さわさわって擦られるの弱いのに♡♡)

耳朶の凹凸を確かめるように、ソフトタッチで指先が這いまわる。皮膚同士が擦れる音が耳元で鳴り響き、敏感な部分を不躰に騷られるくすぐったさが、性感に一層の拍車をかけていった。

「んうう♡♡ っふうう♡♡ う♡ んうう♡♡ っ〜〜♡♡」

「やっぱりお耳弱いんだね♡ 腰びくびくさせちゃってえっろお……♡ お口もちんぼされるの好きみたいだし、穴がある所はどこでも性感帯なのかなあ？♡ どーれ、じゃあこれはどうかなあ？♡」

一度自身の両中指をしゃぶってから、再び武蔵の耳に手を伸ばす男。唾液をたっぷり纏わせた指で穴の入り口を濡らしてから、ちゅぼちゅぼと音を立てて出したり入れたりを繰り返してやる。

「そおら♡ 敏感なお耳の穴に、唾まみれの指ちんぼが出たり入ったりしてるぞお〜♡ エッチなじゅぽじゅぽ音が脳味噌まで響くでしょ？♡ スケベ穴にぬるぬるの棒が出たり入ったりしてる♡ これだけで想像妊娠しちゃいそうだねえ〜♡♡」

「ん、おあっ♡ やら♡ それやらあっ♡♡ みみにちんぼしないれっ♡♡ ああっ♡♡ もおまんこせつないっ♡♡ ちんぼほしいよおお……！♡♡」

堪らず肉棒から口を離して股座にしな垂れてしまう武蔵。
しかし男は構わず耳の穴を穿りながら腰を振り、唾液と我慢汁でむんむんと性臭をまき散らすペニスを武蔵の頬に擦り付ける。

「え〜？　まずは喉マンコに一発種付けしようと思ったんだけどなあ〜♡　そんなに俺のちんぽで妊娠したい？♡　そんなに俺のちんぽでおまんこホジホジ♡　ってして子作りして欲しいの〜？♡」

「したい♡　したいっ♡　このちんぽでホジホジしてほしいっ♡♡　おれのメスまんこで生ハメしてください♡♡　なんにも考えないで無責任な中出しセックスしていいから♡♡　ちんぽのイライラすっきりさせるためのコキ穴にしたいからあ♡♡」

「ッ……♡♡　そこまで言うなら仕方ないなあっ！♡♡」

興奮のあまりぶるりと雄竿を戦慄かせ、男が武蔵を押し倒した。尻を持ち上げて内腿を左右に割り開き、自分は真上からのしかかるように亀頭で狙いを定める。ぱんぱんに張り詰めた赤黒ちんぽの先では、ピンクの粘膜を覗かせるふっくらとした肉縁が、期待に泣き濡れながらくぱくぱと雄マラを強請っていた。

ぬるっ♡　ぬるっ♡　アナルを天井に向けて大股を開かせた恥ずかしい体勢で、亀頭が入り口を焦らす。

「ほら、若旦那さんのココはおまんこなんだよ♡　危険日ま

んこを、今日初めて会った男のゴム無しちんぽが狙ってるよ♡でも発情しちゃったおまんこじゃ拒めないよね♡ぶっといちんぽでぬ〜ぶぬ〜ぶって、まんこ往復して抜きまくって欲しいもんね♡子宮でゴクゴクってザーメン飲んで受精アクメしたいよね♡♡」

情欲に支配された今の武蔵にとっては、その妄言すらも堪らなかった。ああ、今からこのちんぽに孕まされてしまうんだ。排卵日の、おちんちんに逆らえないおまんこを、思いっきりほじくり回されて征服されてしまうんだ。そんな期待に下腹部が支配され、肉縁が亀頭にちゅうちゅうと吸い付く。「そおら、ハメるぞハメるぞ〜♡まーっすぐ、奥まで一気にちんぽ入っちゃうぞ〜♡♡」

「ひっ♡ ひんっ♡ ひうう……♡♡」

ぬこおっ♡ぬこおっ♡腰を上下させると、竿が浅い部分を出入りする官能がより期待を募らせた。唇を噛み締めながら意地悪なちんぽ焦らしを堪能する武蔵に、男が笑みを深くする。

ぬぷぷぷぶううう〜〜〜♡♡♡

「んおおおッ……〜〜〜！♡♡♡」

重量に従って、滑らかに剛直が落とし込まれていく。前立腺を擦り上げ、肉襞を巻き込んで、膣道全体を雄の質量でみっちり埋め尽くしていき……♡

ちゅっ♡最後に、チン先と秘密のお口とがキスした所で、

ちんぽハメ完了だ。柔い部分を征服され、武蔵の足がびくんと跳ね上がった。

「ああ……まんこあつつ……♡ こんなアツアツトロトロにして、ちんぽ求めてたの丸わかりのスケベおまんこだ♡ ほらほらどーお？♡ これから受精するちんぽ気持ちいい～？♡」

「ああっ……きもちい♡ きもちいい、ですう……っ♡♡」
「ん～♡ そっかそっかあ♡ じゃあもっと妊娠確実になるために、おまんこをシッカリ解そうね♡ ちんぽで念入りにちゅぽちゅぽしてあげるから、ザーメン欲しくて堪らないおまんこになろうね♡」

ぬろっ♡ ぬろっ♡ ぬろおっ♡ 男が腰を上下させる動きに従って、丸出しおまんこに逞しく勃起したペニスが出たり入ったり。雄竿が往復する度にぷりぷりの肉ヒダが上下左右に扱かれて、張り詰めた亀頭で前立腺が押しつぶされる。そして気まぐれに根本まで腰が落とされる度、最奥と鈴口が静かに触れ合って互いの粘膜をさらに発情させていく。膣道は腸液を滲ませさらに蕩け、ペニスもどぼどぼと我慢汁を垂れ流し、粘液が混ざり合った蜜壺は激しくない動きにも関わらず、くちよくちよぶちゅぶちゅと卑猥な交接音を響かせる。
「排卵日の生ハメセックス堪えないよね♡ おまんこが一番気持ちよくなれる時期だもんね♡ ゴムなんて勿体ないよね♡ あ～～、イく前からちんぽ汁たっぷり出てるよ♡